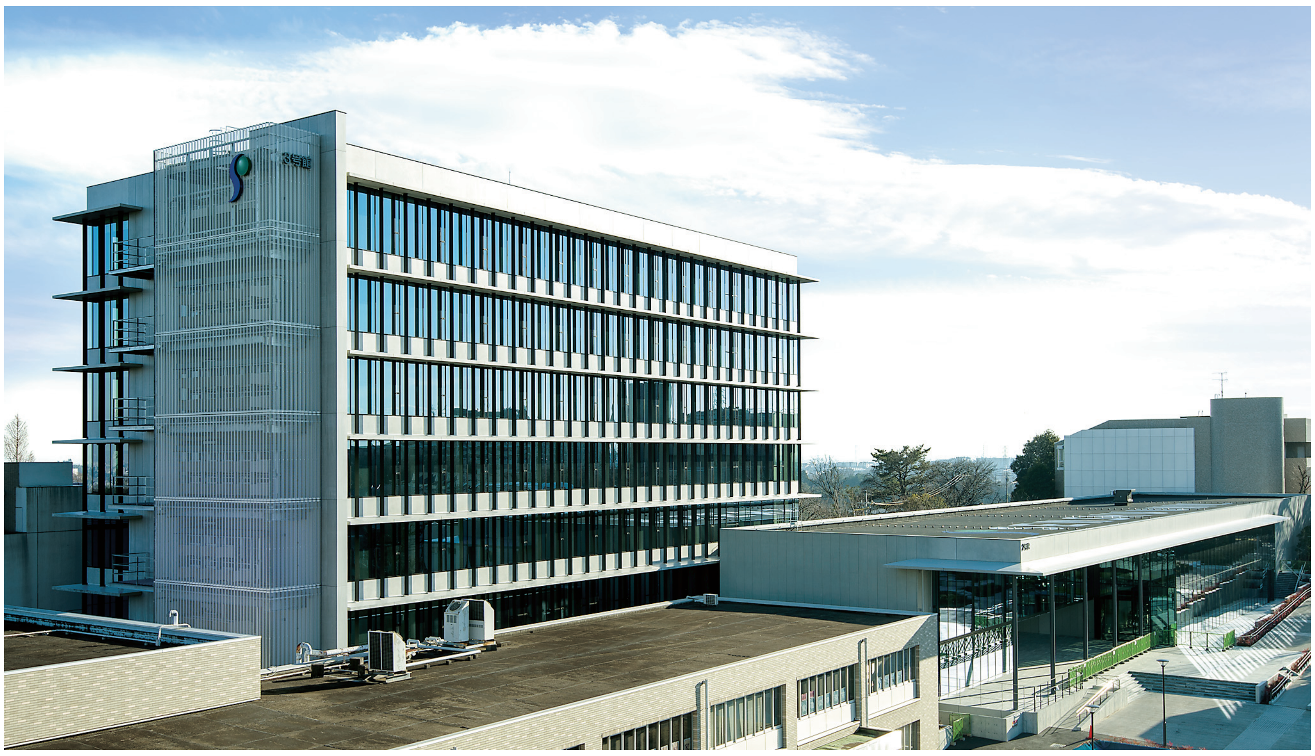
ニュース専修

●「専修大学」ホームページ●
http://www.senshu-u.ac.jp/

毎月１回15日発行
（定価一部90円）
発　行　所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

主なニュース

公認会計士試験　在学生合格者インタビュー……❷
アマ囲碁トップ大関さん（商2）に学長賞／エチオピアで陸上指導の小山さんが活動報告……❸
【文学部50周年】記念祝賀会で歩み振り返る……❹
170人が奮闘　課題解決型インターンシップ……❻❼
石巻専修大学　尾池守学長　年頭のあいさつ……❿



生田2・3号館竣工

生田キャンパスで2015年から整備を進めていた新しい2号館（右）と3号館の建物工事が昨年12月末、完了した。2月7日に落成式が行われ、4月から使用開始の予定。（2016年12月29日撮影）

2017年　年頭所感

オール専修　飛躍の年

理事長　日髙　義博

新たな知の発信拠点実現

新年を迎えました。慶賀申し上げます。東日本大震災後のキャンパス整備は、いよいよ大詰めの段階に入りました。生田キャンパスでは、新2号館・3号館の落成式を2月に行う予定です。厳しい工期の中での建設でしたが、関係各位の熱意ある尽力によって、生田キャンパスのシンボルとなる校舎の竣工も間近です。新3号館の7階ホールは、多摩丘陵の一番高い場所であるだけに、富士山、浅間山、筑波山などを一望することができ、四季折々のすばらしい景観を楽しむことができます。

神田キャンパスでは、靖国通り新校舎の建設計画が着々と進んでいます。まもなく基本設計に入ります。新校舎において展開する教育内容に沿う建物となり、かつ神田における新たな知の発信拠点としての機能を備えたものとなることを期待しております。靖国通り新校舎の建設は、創立140周年記念事業の中の大きな柱であり、機を逸することなく、着実に実現していく所存です。

石巻専修大学のキャンパスでは、震災後に建設した学生寮が学生生活の拠点としての機能を果たしており、陸上競技場の整備も終わっております。野球部や女子競走部の活躍は、現場の明るさを取り戻しています。しかし、地域社会の経済状況は上向いておらず、なお厳しい環境の中で、学生は勉学に励んでいます。進学サポート奨学生制度による支援活動は始まったばかりですが、地域に根ざした大学としての使命を果たす施策の一つです。

そのような状況のなかで、昨年、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に石巻専修大学の「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ」が採択されたことは、現場に活気をもたらしました。

中教審が大学改革の指標を示してから、10年の歳月が流れました。矢継ぎ早の大学改革が進む中で、専修大学は、研究に基づく教育を行うという目標を立て、さまざまな大学改革に取り組んでいます。石巻専修大学も、地域に根ざした大学という目標の下に、大学改革を行っています。しかし、大学改革は、未だ到達点にありません。ここ数年がまさに山場です。18歳人口の激減期が目前に迫っているだけでなく、震災後の厳しい財政状況の中にあって、生き残りを懸けた大学間競争の勝敗が決まろうとしています。

私学にあっては、学生なくして大学の存立はありません。国からの経常費補助金は、本学の場合、平均約7％ですが、それも年々減少傾向にあります。専修大学創立140年・石巻専修大学創立30年記念事業募金は、大学改革の山場を乗り越える上での重要な取り組みであり、本学の魅力のバロメーターともなります。すでに多くの方々から寄付の申し出をいただいていますが、本学の行く末を見守っている人々の熱い眼差しを感じます。

本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」を実現するためには、卒業生が建学の精神を背負って社会で貢献することが必要です。そして、母体である大学運営は、いかなる時も健全に推移しなければなりません。これからは、本学の知的発信の幅を広げると共に、大学運営に寄与する「寄付の文化」を根付かせることが重要だと考えています。今年は、大学改革の山場を迎えます。オール専修の叡智（えいち）を結集し、本学の更なる飛躍を期したいと思う次第です。

学長　佐々木　重人

神田・生田　双方向性を高める

明けましておめでとうございます。本年は、専修大学創立140周年（2020年）に向けたキャンパス構想がいよいよ目に見えて動き出す年になると思っております。2020年4月には、千鳥ケ淵の桜で飾られた美しい街並みのなかにそびえ立つ新校舎を完成させ、法学部に加えて、新たに国際系新学部の設置と商学部の生田キャンパスからの移設によって、相互のコラボレーションを図り、国際色あふれる新しい学びの場を、都心のビジネスタウンを擁した本の町、神田神保町で創りあげる所存です。そのための具体的な作業に、教職員一体となって着手する一年になります。

同時に神田キャンパスと対となる生田キャンパスを「思索と躍動のキャンパス」として再構築する必要があります。2017年4月から運用を開始する新3号館は、大学院生教室をはじめ、社会知性開発研究センターや教員研究室などが中心となる思索のスペースとなります。同じく新2号館は、博物館実習施設のほか、音響・映像設備が充実したアクティブラーニングスタジオとラーニングシアターを併設し、学生参加型の躍動感あふれる学びのスペースとなります。これらにあわせて、2019年4月には、文学部ジャーナリズム学科の改組新設および経営学部での学科増設を伴ったカリキュラム改革が決定しております。さらに、経済学部では学科再編に向けて検討が開始されています。

神田と生田の両キャンパスは、相互補完関係にあり、ネット環境を整備・活用し、一体化する工夫が必要と思います。たとえば、体育会に所属する学生の部活動などに対応しうる受講方式（オンデマンド・リアル配信）を導入するための検討を開始すべきでしょう。また、生田キャンパスの整備されたスポーツ施設を有効に活用するため、神田キャンパスの学生が特定の曜日・時限に生田キャンパスで体育実技を受講することの検討も必要になると考えます。さらに、既に導入されている「学部間相互履修制度」をより柔軟に運用することによって、両キャンパス間の双方向性を高められないか模索したいと思います。

これらの大改革には、当然ですが相応の資金が必要です。そうした意味でも、本学の建学の精神に賛同していただける方からのご寄付を募るために、新たな工夫が重要です。

2016年を飾り、今後さらなる成果を予感させる出来事も多くありました。例年どおり司法試験、公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験に多くの合格者が出たことは、この上ない喜びです。専大スポーツ界では、とくに野球部OBの奮闘と悲願達成に心揺さぶられました。広島東洋カープ25年ぶりのリーグ優勝に貢献し、昨シーズンをもって現役を引退された黒田博樹さん（平9商）の生き様は、本学のミッション「社会知性の開発」をめざす姿と重ね合わせることができました。

本年も学生や卒業生のみなさんが、各界でさらなる飛躍を遂げていくことを祈念します。

「センディ」LINEスタンプ配信中

出願受付中
100％WEB出願

スカラシップ・全国入学試験〈一部〉
試験日　２月１日（水）
出願締切日　1月24日（火）※消印有効

一般前期入学試験〈一部〉
試験日
２月９日（木）、10日（金）、12日（日）、13日（月）
出願締切日　２月３日（金）※消印有効
窓口受付日【神田キャンパス】　２月４日（土）

詳細はホームページで必ずご確認ください。
http://www.senshu-u.ac.jp
専修大学 入試　検索
入学センターインフォメーション
【神田キャンパス】☎03・3265・6677
【生田キャンパス】☎044・911・0794